

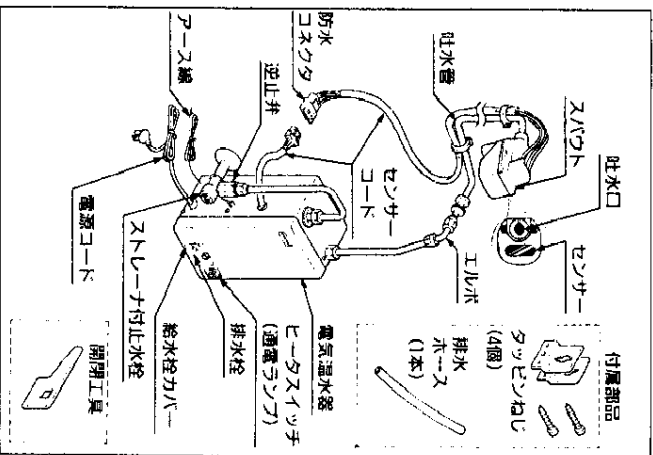
TOTO

手洗器用自動水栓・電気温水

製品の機能が十分に発揮されるように、この取

仕様

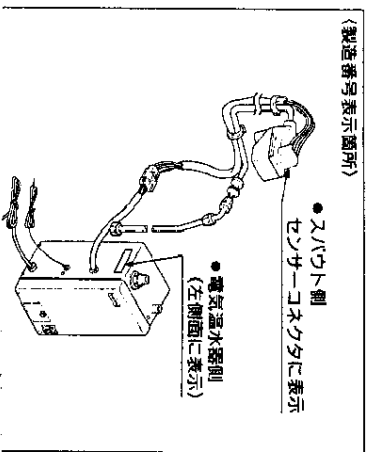
TEL590BE
(電気温水器内蔵タイプ)



項目	内容
電源	AC100V、50/60Hz(共通)
消費電力	約50W
電源コード	1.1m
タンク容量	1.5L
沸上がり時間	約5分 (入水温約15℃～30℃)
製品寸法	150mm(幅)×190mm(奥行)×200mm(高さ)
給水方式	元止め式
沸上がり温度	約38℃
安全装置	温度上昇防止・電子断熱断流防止(バスタブル)
給水圧力	最低必要水圧 0.05MPa(流動時) 最高水圧 0.75MPa
周囲使用温度範囲	0～40℃

取付け前に

- 電気製品ですので、水がかかったり、表面に結露を生じるといったような湿気の多い場所での使用は避けてください。故障の原因になりますので特に、浴室内では使用しないでください。
- 電気工事が必要な場合は必ず電気工事店に依頼してください。電源は交流100V(50/60Hz)、消費電力は約50Wです。必ずこれに適した配線をしてください。
- プーアスは、口種接地工事(100Ω以下)を行ってください。
- 給水範囲は、0.05～0.75MPaです。この圧力範囲で使用してください。
- 給水は、上水道に接続してください。中水道及び異物を多く含む水には使用できません。
- センサー面は傷つけないよう十分ご注意ください。
- 光電センサーの感知距離は電気温水器部と一対で調節していますので、必ず付属のスパウトと電気温水器部を組合わせて使用ください。(製造番号が同一です)(注)スパウト部と電気温水器部の製造番号が同一であることを確認すること。

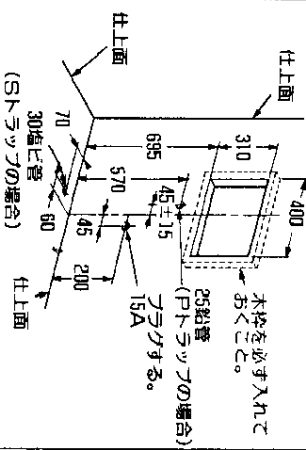


8. 陶器は、自動水栓専用陶器です。

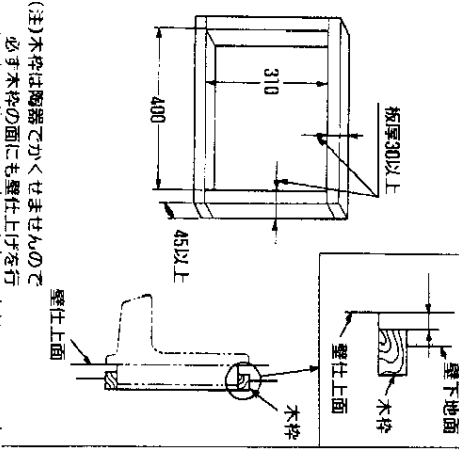
自動水栓	陶器品番
TEL590BE	L590A

陶器品番がL590の末尾にAが付いていることを確認ください。

下準備



(注) フラックの排水位置は手洗器の中心から左に45±15です。
(注) 壁は上げ前に図のように木ねじ固定用の木枠を入れておいてください。
木枠(現場手配)



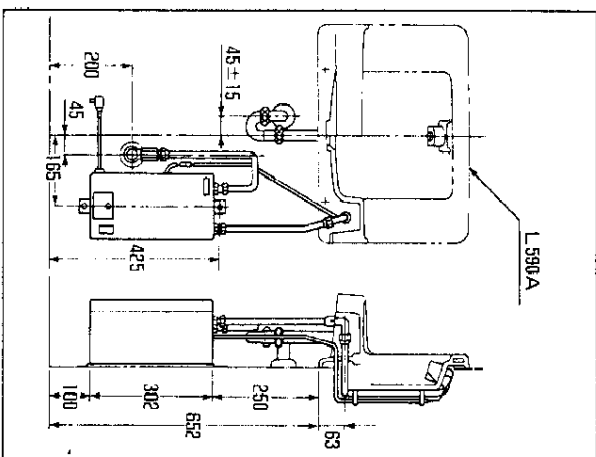
(注) 木枠は陶器でかかせませんので必ず木枠の面にも壁仕上げを行

別売品

・RHE1 脚(4本)	固定金具	木ねじ
フジヤスタ	(2個)	(4本)

床置きする場合があります。

完成図

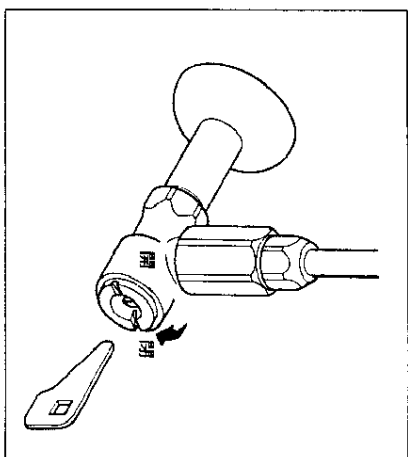


試運転

タンクが空の状態ヒータースイッチを「入」にすると、空だきとなり、漏水及び故障の原因になります。
以下の手順にしたがって試運転を行ってください。

1. 通水の確認
1 ヒータースイッチが「切」であることを確認してください。
2 電源プラグをAC100V(50/60Hz)のコンセントに確実に差込んでください。
3 ストリーナ付止水栓を開いてください。
4 (通水の確認) 手を吐水口に近づけ光電センサーに感知させ、20秒程度お待ちください。
吐水口から水が出はじめるとタンクが満水になったことを示します。

2. 吐水量の調節
吐水量が5L/min程度になるように付属の開閉工具でストリーナ付止水栓を回して、吐水量を調節してください。



(注) 約200mLの容器(牛乳ビン等)が2~3秒でいっぱいになるのを目安にしてください。

3. 通電の確認
1 ヒータースイッチを「入」にしてください。
2 内部が水るとき通電ランプが点灯すれば正常です。
3 沸上がるまでは約5分かかります。(入水温度約15°Cの場合)
4 沸上がると通電ランプは消灯します。

ストリーナの掃除

ストリーナがつまると吐水量が少なくなり、十分な機能が発揮されなくなります。また、器具取付後は、必ずストリーナを掃除してください。また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導ください。
(注) ストリーナを取外す時は、付属の開閉工具で止水栓を開けた後、ストリーナを外してください。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。なお、お手入れ方法は“ご愛用のしおり”をご覧ください。

工事店様へ

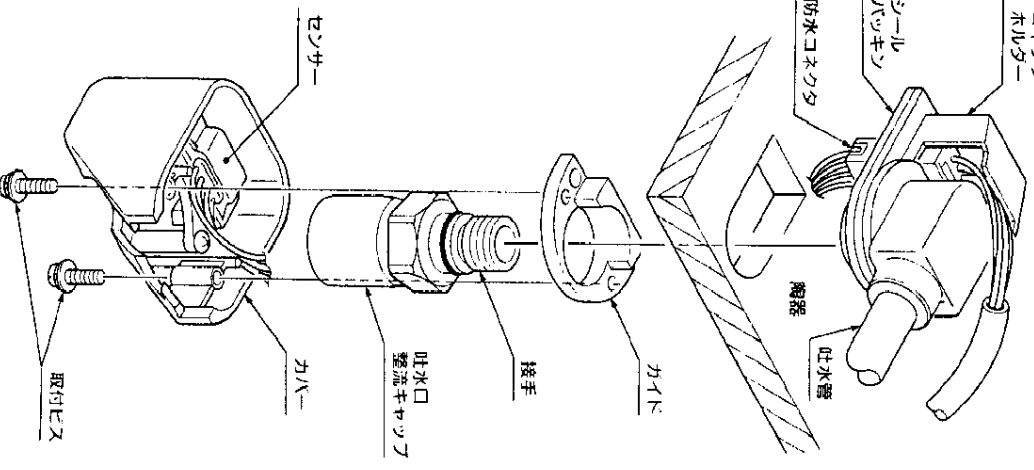
1. 施工が終わったら必ず各接続部から漏水の無いことを確認してください。
2. お客様に引き渡す前に凍結のおそれがあるときは、止水栓を開め、電気温水器内の水抜きをしておいてください。
3. 特に次のことについては十分にご説明ください。
1 タンク内が空のとき、絶対に通電しないこと。
2 吐水口を絶対にふさがないこと。
3 沸上がる途中では吐水口から湯が漏下しますが、これはタンク内の水が膨張するため故障ではないこと。
4 凍結予防のための使用方法。
5 冬期使用時、最初に冷たい水が出る場合がありますが、これは配管内に残水があるため故障ではないこと。

水器内蔵タイプ・取付説明書

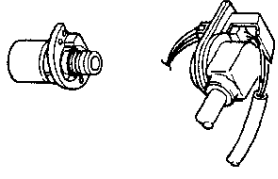
寸説明書の内容にそって押しこ取付けてください。

器具の取付け (その1)

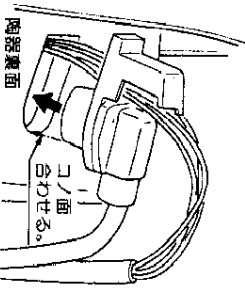
1. スバウト部取付け



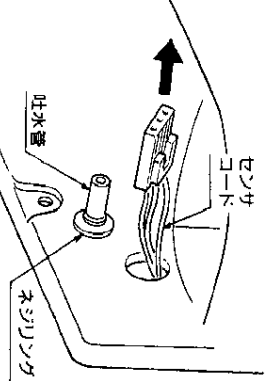
① カイト及び接手を吐水管部より一度、取はずす。



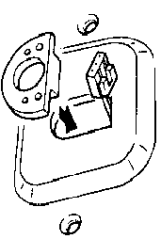
② コネクタホルダのシールをはがし、陶器に固定する。コネクタは、穴を通して、陶器表面へ出す。



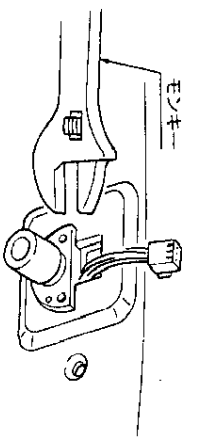
③ 陶器下部の大穴にコネクタを、小穴には吐水管を陶器裏面から表面へ出す。小穴の吐水管は、ネジリングにて、陶器をはさみ込み固定する。



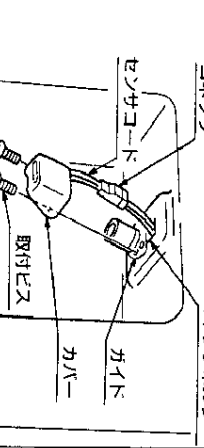
④ 陶器表面にカイトを図の向きにセットする。このときリード線がみ込みに注意。



⑤ 接手をねじ込みカイトを固定する。締付けは、リード線のかみ込みに注意しながらモンキー等で確実に行うこと。



⑥ コネクタを接続した後、コネクタホルダ一内にコネクタを納める。次に、カバーの凸部をカイトの凹に合わせる要領でカイトにカバーをビス取めする。この際、センサーコードのかみ込みに注意すること。コネクタ

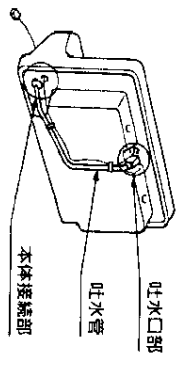


(注) コネクタの接続は、ロックが確実にかかるまで、差込んでください。

コネクタの抜き差し要領

- コネクタの接続は、ロックがかかるとまで確実に差込んでください。
- コネクタをはずすときはロックを押下げて引抜きます。

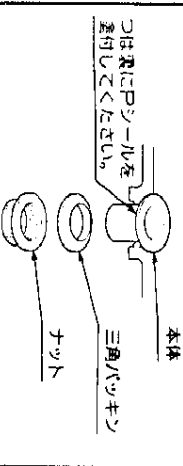
(注) 吐水管は変形しないよう取扱いに注意してください。
 (注) 吐水管の防露対策は必要に応じて現場にて行ってください。



器具の取付け (その2)

2. 排水金具の取付け

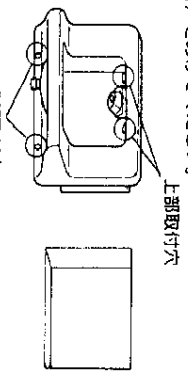
手洗器に排水金具の本体部を取付けてください。



三角パッキン
ナット

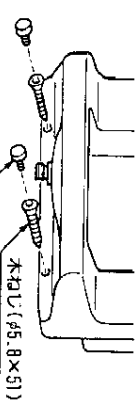
3. 手洗器の取付け

手洗器を仮置きして、取付穴の位置をけがき、下穴(4カ所)をあけてください。

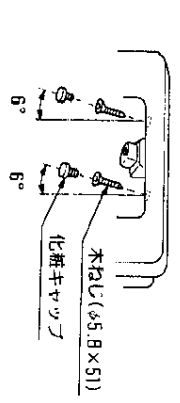


(注) 上部木ねじの下穴をあける際は機器の傾き(約6°)に合わせて穴あけをしてください。
次の手順で木ねじを固定してください。

1 下部木ねじの固定(TA3N×2コ使用)



2 上部木ねじの固定(TA3N×2コ使用)



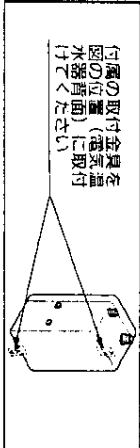
(注) 施工後の補修を容易にするために、手洗器をモルタルで埋戻したり接着剤での固定はしないでください。

4. 電気温水器部の取付け

1 ストレーナ付止水栓を取付けます。

2 右図の要領で、ストレーナ付止水栓に逆止弁を取付けます。

3 電気温水器本体を取付けます。



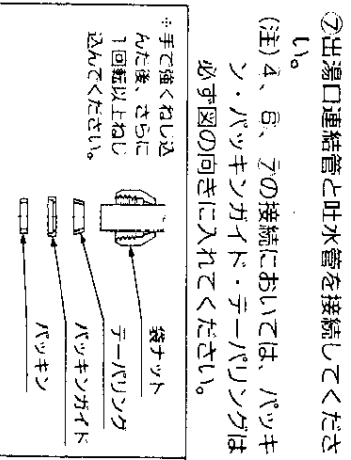
4 給水口連結管を逆止弁と電気温水器給水口に接続するために連結管の逆止弁側を必要な長さに切断してください。このとき接続口への差込みみを約20mm以上確保してください。

(注) 連結管を切断したあと、必ず水洗いにより、切り粉を取除いてください。
5 給水口連結管に図のように部品を入れ接続してください。

6 出湯口連結管と吐水管とをエルボを用いて接続するために必要な長さに切断してください。

7 出湯口連結管と吐水管を接続してください。

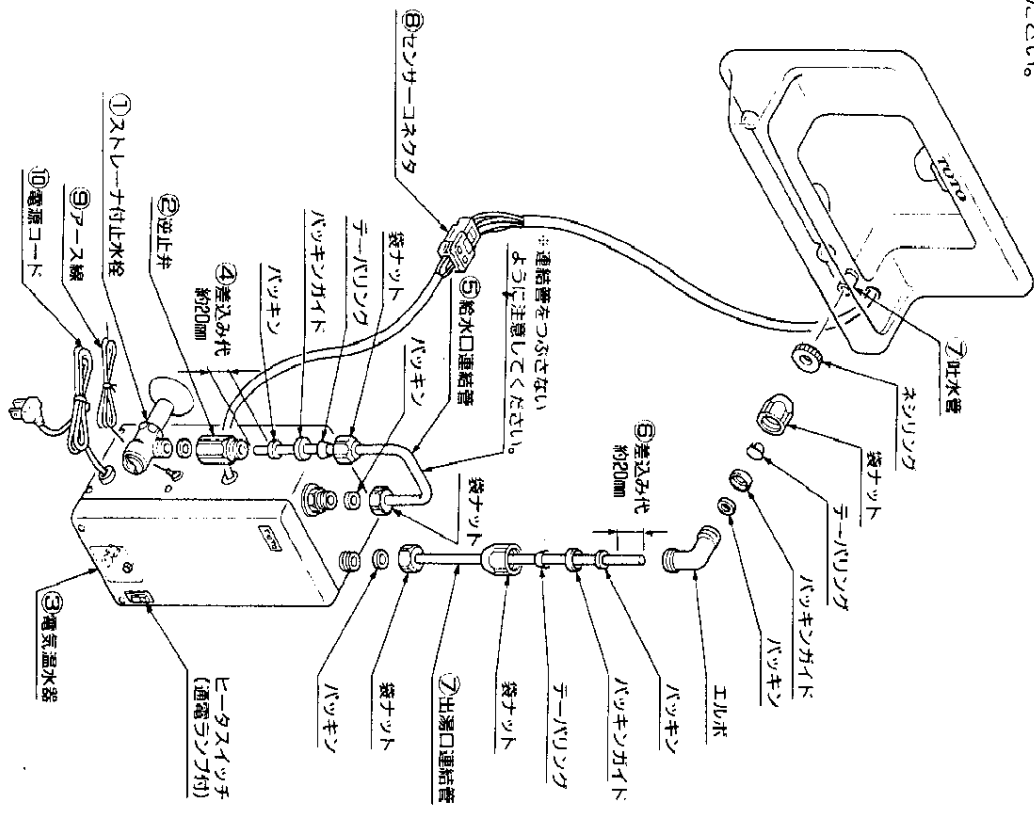
(注) 4、6、7の接続においては、パッキン・パッキンガイド・テーパリングは必ず図の向きに入れてください。



*手で強くねじ込んだ後、さらに1回転以上ねじ込んでください。

8 センサーコードのコネクタと電気温水器部のセンサー用コネクタを接続します。
(注) コネクタの接続は、ロックが確実にかかるまで、差込んでください。

9 アース線をアースターミナルに接続してください。
10 ヒータスイッチが切であることを確認してから、電源プラグをコンセントへ差込んでください。



*付属のご愛用のしおりは、必ずお客様にお渡しください。
手渡できない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げてください。